



三条北ロータリークラブ週報

2014-2015年度

国際ロータリー会長：ゲイリー・C. K. ホアン「ロータリーに輝きを」

第2560地区ガバナー：佐々木昌敏「ロータリーは、あなた自身から」

— You are Key —

三条北ロータリークラブテーマ「ロータリーライフを楽しみましょう」

会長：岡田 健

幹事：外山 裕一

SAA：金子太一郎

例会日：火曜日12:30～13:30

例会場：三条ロイヤルホテル TEL34-8111

事務局：三条市本町3-5-25三条ロイヤルホテル内

TEL:0256-35-7160 FAX:0256-35-7488

HP: <http://www.sanjo-nrc.org>

AD: north@sanjo-nrc.org

例会日 2015. 4. 28

累計No.1359

当年No.39



本日の行事：卓話

「茶の湯」の流れ

◆本日の出席：65名中38名

◆先々週の出席率：65名中48名 73.85%
(前年同期 82.86%)

◆本日のゲスト

茶道宗偏流信越支部長・三条支部長
長谷川 宗直 様

◆本日のビジター

東京銀座RC 安藤重幸さん
三条RC 五十嵐昭一さん

◆先週のメイクアップ（敬称略）

4月23日三条東RC 星野義男

23日第1回ゴルフコンペ

岡田 健、岡田大介、大野新吉
今井克義、青木省一、加藤 實
樋口 勤、米山忠俊、石川一昭



会長挨拶：今井克義副会長



ご挨拶申し上げます。

本日卓話をお願い致しました長谷川宗直様、改めましてよくおいで頂きました。後でのお話、楽しみにしております。

東京銀座クラブより安藤様 わざわざ、おいで頂ましてありがとうございました。これからも時々おいで頂ける事を期待しております。

皆様方の中には茶道というものに対して精通していらっしゃる方もおいでだと思いますが、私はいわゆるお茶の作法については全くの門外漢です。ただ抹茶を頂く事に対しては人一倍、大好きな人間です。

私は、生まれも育ちも三条っ子ですから小さい時から、正月の三が日は餅を食べますが、殆ど朝食は雑炊です。今もこの習慣が続いています。雑炊を食べ終わると殆ど毎日のように、好きな羊羹などを食べながら抹茶を頂く、普段の朝の定番です。今朝も桜餅を頂きながら二服いただきました。余計な事かもしれませんが、私は甘党だけではなく酒も大好きで365日晚酌を欠かした事はありません。一応お伝えしておきます。

私はお茶に対しては全くの素人ですが、人生71年生きて居りますので、いろんな機会にいわゆる正式なお茶席に参列する事がありました。

季節を表すおいしい和菓子とお茶を頂ける事は大きな魅力です。皆様方にお聞きしたいのですが、たとえば羊羹を頂きながらお茶を飲む時は、たいていの方は羊羹を一口、すぐに渋めのお茶を頂く、これが美味しいのではないかと私は思っています。又一口羊羹を頂きながら、お茶を頂く。

これはケーキとコーヒーでも同じだと思います

が、ところが正式なお茶の席ではこれはダメらしいんです。和菓子を頂いてしまう。口の中が甘ったるくなります、さあこれからお茶が飲めると待っていますが、なかなか出てきません。口の中の甘みがすっかり無くなった頃にお茶を頂く、というのが、私が今まで参列した殆どです。よく知りませんが、例えば剣術と剣道の違い、柔術と柔道の違いと共通すると思いますが、茶道は非常に奥の深いものだと聞いておりますので、そういう運びになると思いますが、私個人としては少し不満なやり方だと思っております。今日も話にならないような話を致しました。先日も、2・3の方には判って頂きましたが、今日も同じように締めくらせて頂きます。私の職業に免じてお許し頂きたいと思ひます。

幹事報告：外山裕一幹事



- ・第4分区菊池ガバナー補佐より 会員増強の目標達成に向け努力をお願いします。
- ・山本ガバナーエレクトより 次年度地区バッチの配布について 地区の会議、及び公式訪問等必要となりますので各自保管、宜しくお願いします。
- ・家庭会合の日程を配布しました。宜しくお願いします。

第一日目 5月25日(月) 魚長

第二日目 5月27日(水) 餞心亭 おゝ乃

第三日目 5月28日(木) 三条ロイヤルホテル

※5月26日(火)はお昼の例会があります。さる〜んでの移動例会となります。

*****ロータリー財団ボックス28日現在累計326,000円*****

羽賀 一真君 昨日やっとギブスが外れました。是に懲りて「2度あることは3度ある」とならないように気を付けなければ！

石丸 進君 高橋さんに協力します。

米山 忠俊君 ゴールデンウィーク前で気分も高揚

高橋 研一君 研修旅行で温泉旅館内で石丸さんの説明がありその通りにはしゃぎすぎ、とても楽しく過ごしました。バスの中では大野会長より魔王が差し入れされ、とても美味しく頂きました。ありがとうございました。社長様へ宜しくお伝え下さい。

*****米山奨学ボックス28日現在累計408,000円*****

中條 耕二君 宗徧流の長谷川先生を心から歓迎申し上げます。めったにお聞きできない卓話に期待して居ります。

米山 忠俊君 米山奨学BOXのテーブルに着きました。

石川 一昭君 吉田委員長に協力!!

吉田 文彦君 お天気続きで心も晴れ晴れ。ゴールデンウィークは田植えの最盛期です。忙しくなります。

*****ニコニコボックス28日現在累計829,000円*****

五十嵐昭一君 (三条RC) 久しぶりにメイクアップ致しました。宜しくお願いします。

吉田 文彦君 どなたか五十肩の治し方ご存じの方は居ませんか？休み毎に日帰り温泉に通っていますが効果がありません。

石川 友意君 長谷川様の卓話に感謝して

湊岡 茂君 BOXにお付き合い

落合 益夫君 ボックス協力

佐藤 義英君 //

石川 一昭君 暑い日が続いています。後期高齢者の皆様、水分補給はこまめにとって下さい。長谷川様、外の暑さに劣らず熱く卓話お願いします。

本日の行事：卓話『茶の湯』の流れ」



茶道 宗徧流信越支部長・三条支部長 長谷川 宗直 様

本日はお招き頂き感謝申し上げます。宜しく願い致します。

今、小学校で「日本文化を学ぶ」という授業が行なわれているようでございます。

私もその一環として

裏館小学校の茶道クラブのお手伝いをさせて頂いております。子ども達には日本人らしさを身につけた上で世界に羽ばたける人達になって頂きたいと思っております。

今日は茶の湯の歴史まではできませんが茶の湯の流れだけでも聞いて頂ければありがたいと思っています。

お茶は中国から入ってきたことはご存じだと思いますが、その頃から今日までの流れを本当におおざっぱにお話させて頂きます。

薬用の時代：13世紀鎌倉時代、遣唐使によって渡ってきました。健康によい飲み物として入ってきました。今でも癌や高血圧によいと言われて居ます。先ほどの今井会長さんの様に毎朝お抹茶をお飲みになることは良いことなのでどうぞ続けて下さい。

その頃の抹茶は今の物ではなく、茶の葉っぱを摘んで乾燥させて煎じて飲む、いわゆる煎じ薬のような物だった様です。美味しくなく、人気がなかった。その後中国からお抹茶という物が入って来ました。宋の国から栄西禅師が茶の苗を持ってきて京都の梅尾に植えて、育て方、製法、飲み方などを伝えましたが、やはり不老長寿の薬としてでした。

嗜好品の時代：14・15世紀お茶の名産地は京都の梅尾、薬ではなく、美味しい飲み物とされるようになりました。飲むことを楽しむ様になった。

芸能化の時代：16世紀頃、芸能とは能、歌舞という物です。演じる人と観賞する人が居ます。同じ演目で、同じ舞台で同じ人が見ても二度とそういう機会が無い、その一回を一生懸命やると言う事が一期一会です。それと同じにお茶の道も一期一会です。同じ季節、同じ道具、同じ場所、同じお客、同じ亭主がやることは先ず無い事です。茶は立ち居振る舞い、装い、し

つらい（室礼）等で成立していて非日常的なものであった。お茶会、お茶事という形が出てきました。室町時代には我が国独特の極めて洗練された寄り合い芸能のひとつとして完成して居ました。昔から我が国は外来文化を豊かに取り入れて、それを独自の鑄型に入れて練り上げて、数々の文化形式を生み出していたようです。是は他国に類を見ない、日本民族の特性のようで茶の湯はその最も典型的なもの。

政治家の時代：16世紀中頃から17世紀中頃、安土桃山頃。お茶と政治が一体化。信長は茶の湯政治で天下を収めていた。戦で手柄を立てた家信へのご褒美として、「茶道具がいいか、一国一城がいいか」と言うと、「茶入れを賜りたい」と言うように茶道具と一国一城が同格に見られていた時代。秀吉が利休とともに初めて天皇にお茶を差し上げたと言う事も書物にあります。なぜ茶道が大流行し、武将に受け入れられたかということ、茶の湯は新しい文化で誰の手垢もついでいない、自分たちだけの物にして優越を感じていた。戦国武将にうけたもう一つは常に生死の間に身を置いた名状しがたい固執（こしゅう）の思いにもとづくものと思います。

牛耳化の時代：17世紀中期から18世紀江戸時代後期。闘茶が出てきました。闘茶とは、何処の茶畑で採れ、誰が製造し誰が茶壺に収めたか。茶名は何か。を当てる遊びです。

今でも残っていて、奥伝になりますと、お茶名を当てる様なこともいたします。

利休の子ども小庵は利休が切腹沙汰になりひっそりと、自分の子どもの宗旦をお茶の道に導く。宗旦は子ども達に武者小路千家・表千家・裏千家を立ち上げて分家に出しました。

宗旦の一番弟子（直門）の山田宗徧に宗徧流を名乗らせた。このように江戸後期頃に流儀が分かれました。私達の今の宗匠は11代目ですが、利休直伝ですので利休から数えると14代目に当たります。

流言化の時代：18世紀中期から19世紀。江戸中期から趣味として栄えてきました。遊びの世界に入って来ています。新興商人が多く出た。お茶を専門に教える人が出てきます。千家の覚々斎は俳句を良くした人で俳句には必ず季語がついている。日本は四季のある国だからもっと大事にしなければならないということで茶の湯でも季節感が取り入れられる様になりました。

衰退の時期：19世紀後半、戦時中、戦後。これまでは男社会が先に立って茶の湯を進めて来ました。その人達が戦争でいなくなり、女性、子ども達は食べるものにも困ってお茶どころでない時代。

好き者の時代：20世紀前半。三井財閥を大成した益田鈍翁、日清戦争で大砲製造で富を得た赤星弥之助たちがお金でお茶道具を集め、美術品や禅語を集めたりして、集まって観賞した時代がありました。

家元の時代：世間が静かになり、各家元の特徴が出てきました。

情報化の時代：現在。ちょっと踏み込めば楽しい事が溢れかえって居る。お茶の様に静かに自分を磨くというような物は先がつかめないと言うようなことで下降気味です。是は他流も全部同じです。

人々が伝承文化を伝えてきた事は、日本人の暮らしが茶の湯に凝縮されている。茶の湯は生活に即した文化です。お茶の魅力はなにかというとお茶が美味しいことは基本ですが、そこに心の触れあいを重ね合わせていく事が茶道ではないか。と思います。空間と時間を共有し、最後にお茶が出てくると言うところが面白い所ではないでしょうか。

茶道の価値は・・・現代社会に足りない物、学べない物が学べるのではないかと思います。小学生に炭を見せると「それなあに」と言います。炭を知りません。又若い人は炭は分かって火のおこし方は知りません。又、床の間のない家が増えています。床の間がどういう物か分からなければ、ましてはそこに飾ってある掛け軸なども何かぶら下がっている位に見えます。和食なのに、フォークを使ったり、スプーンで食べたり自由です。しっかりと箸が持てない。和室でも立ったまま挨拶する。縁を踏む等は日常茶飯事で誰も注意もしません。こういう昔からの礼儀というような物を教えるという事が、学校も家庭も欠けているように思えます。茶道のお稽古、お点前のプロセスのなかで教わる。お炭点前というものがあります。炭を組んで炭をおこさなければお茶は点てられない。お炭点前の時に火箸でとっていれますが、「皆さん箸が上手に持てる様なるようにお炭点前をしましょうね」と一声かけます。今の生活に即した事で教えるようにして居ます。

400年続いた茶の流れです。最後に宗徧流の流祖について少し触れてみたいと思います。一口に言えば江戸時代初期の偉大な茶匠で元禄文化を代表する教養人のひとり。現在も両国

技館の隣に立派な江戸博物館があります。その一角に山田宗徧コーナーがあり、所縁のお宝が陳列されています。宗徧流はいわゆる和敬清寂の本来の精神こそ大事にしているものです。

流祖は京都の東本願寺派のお寺で長徳寺の五代目に生まれました。6歳から茶の道を志し18歳で宗旦に弟子入りし寝起きを共にし、26歳で早々と皆伝を授けられました。長徳寺五世として仏道の修行と共に好きな茶の湯に志しのあったことは紛れも無い事です。日々勉学に勤しんだ研鑽の30年を京都で過ごしています。三州吉田（現在の豊橋）の小笠原家で茶道として42年間、仕えました。最初、宗旦に話が来たのですが、利休を見ている宗旦は仕官を拒み、大事な一番弟子に命名、庵名を授けて自分の代わりに宗徧を小笠原家に送りました。

よく小笠原流と言われますが、是は足利義満の命によって武士が武家礼法を作った物で足利幕府から徳川幕府に伝承されました。

山田宗徧は封建制武家社会の中で厳しく自分を律し、忍従と鍛錬の時代を過ごし、その後やっと江戸で円熟した茶風を広めました。江戸の自由な施政の中で円熟の極みに達した茶の世界を開花させました。「目に青葉 山ほとぎす初鰯」これは山口祖堂の句ですが芭蕉と同時代の人です。山口祖堂は宗旦の相弟子でしたので親しくしていたようです。

流祖の著書に茶道要録がありますが、その序文に徳川光圀公が書いています。71歳で仕官を退き、やっと自由な身分で江戸へ下向しますが隅田川のほとり本所二目に庵を構えます。

吉良上野介の屋敷が松坂町で近かった事もあり、吉良邸のお茶を教え始めます。

松の廊下の事件があり、義士討ち入りの赤穂の大高源吾、吉良家家老職、小林平八郎などが宗徧にお茶を習っていました。

今でも家元では12月14日を挟む3日間位を両家を弔う義士茶会を催して居ます。

先週の日曜日4月19日に流祖の308回忌法要が京都南禅寺の法堂（はっとう）に於いて行なわれ、三条支部が奥書院で北海道から九州までの門人500人位を茶席でおもてなしをして帰ってきました。

今日お話をさせて頂きながら、今度もし、こういう機会を与えて頂けるのであれば宗徧流のお点前でおいしい一服を差し上げたいと思いました。

何かのイベント等でお茶に関係するお手伝いする事がありましたら、いつでもお声がけ頂きたいと思います。場違いな所に来たようで入り口

から上がっておりまして、帰りたいと思ったほどでしたが、長時間ご静聴頂きありがとうございました。大変失礼致しました。

貴重なお時間を頂き、本当に有難うございました。

宗徧流三条支部の生い立ち

当地に宗徧流が定着したのは明治時代の事である。家元八世希斎宗匠の家元総監と言われた長岡洞照寺住職の関嶺宗氏の弟子で玉木宗高氏が三条へ嫁いで来られたご縁で関嶺宗先生を招き、茶の湯指導を受ける。三条の時の有力者広川長八氏がその門下に入り宗徧流の普及に努められた。戦後数寄者茶人の田中宗観氏、斉藤権八氏、阿部庄市氏、野島三郎氏他、地元有力者のバックアップもあり、宗徧流は地域茶道文化の向上に寄与し、三条支部の母体として定着した。

昭和二十二年に三条茶道会を発足し、昭和三十一年に宗徧流三条支部を創立した。特筆すべき教授者は戦前より長岡から三条へ出張して数多くの教授者を育成した佐野宗光氏で、積極的に学識者の講演会を開き、墨跡・陶芸・竹芸等専門領域における茶道文化知識を導入し大きく貢献された。このように、故佐野宗光氏・故小嶋宗代氏・故高橋宗節氏・故峯村宗慎氏他、多くの先駆者の尽力で今日の三条支部の基礎が築かれ、その茶系により、現在、教授者計二十数名で県下広域に渡る三条支部の門下育成と宗徧流の伸展普及に努めるべく活動している。

三条支部の諸活動

(三条中心に魚沼・燕・岩室・巻・加茂・長岡に支部会員有り)

- 毎年東本願寺別院を会場に支部茶会開催
- 心からのおもてなしで相互の研鑽を図っている
- 研修会開催・茶境や美術館等の見学
- 各地元、諸々のお茶会に参加
- 市町村民茶会に参加、他流派との交流の場としている
- 三条市内に平成十四年に同好会を立ち上げ、年二回市民の文化向上を目指し茶会開催
- 公の施設・団体・企業等の要請があれば積極的に呈茶で参加
- その他茶道教室・茶道講座等で日本文化茶道の継承者として努めている



第1回ゴルフコンペ

4月23日(木) 巻ゴルフクラブ
優勝-岡田健
準優勝-岡田大介
第3位-樋口勤

